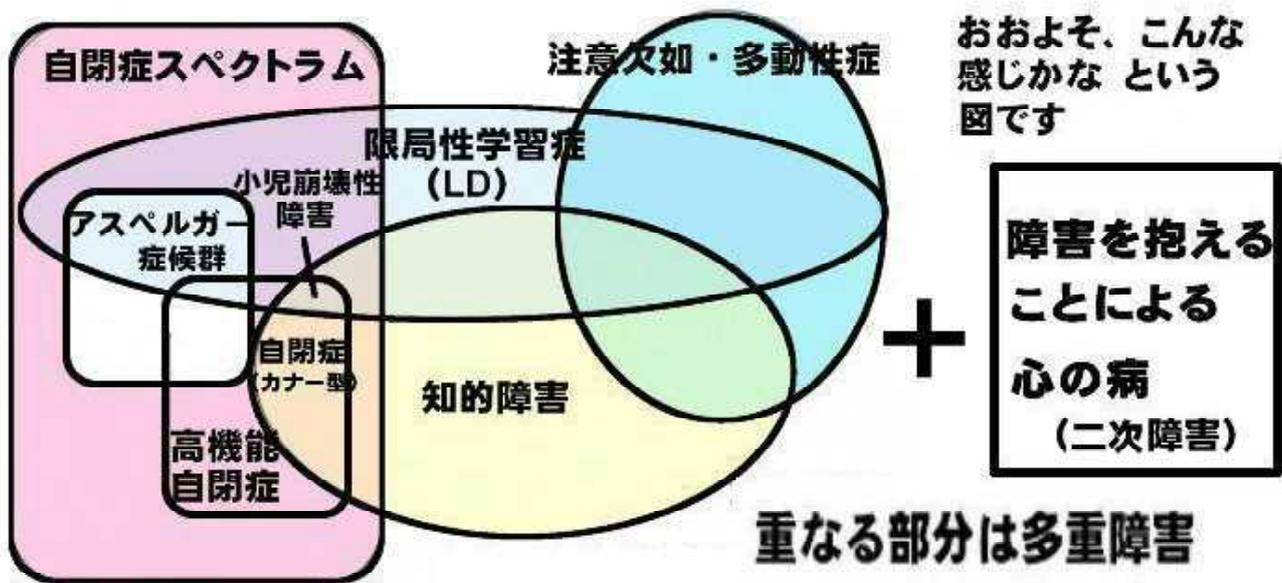


多重障害・自閉スペクトラム

多重障害



おおよそ、こんな感じかなという図です

障害を抱えることによる心の病(二次障害)

重なる部分は多重障害

上の図に示すように、障害を持つ人の多くは、他の障害も抱える傾向にあります。最近では医学の発達によって症状の原因（遺伝要因や環境要因等）やメカニズムも以前より明確になってきました。それとともに多重障害についても、少しずつ理解されるようになってきました。多重障害には、①先天的な多重 ②後天的、誘発的な多重があります。①先天的な併発は生まれながらです。②後天的な多重は、もとの障害が波及し併せて障害になる多重です。誘発的な多重は、例えばある日突然失明したとします。それまでは何の不自由もなかったのが、視界が失われることにより、学習ができない、自由に歩けない等、様々な生活場面に障害が起きてしまう。さらに、そのことが原因で精神的にも病んでしまう（身体障害+精神障害）。といったように、違う部分まで誘発される障害です。急激な環境の変化による二次障害です。

LD、ADHD 日本語名だけが変わったのは何故？

DSMの改訂によって広汎性発達障害（PDD）が自閉スペクトラム症（ASD）に改名されました。が、LDやADHDは、日本語名だけが変わっています。何故でしょうか？ 障害と名の付くことで、親子がショックを受けたり、症状が改善しないと誤解されることに配慮した

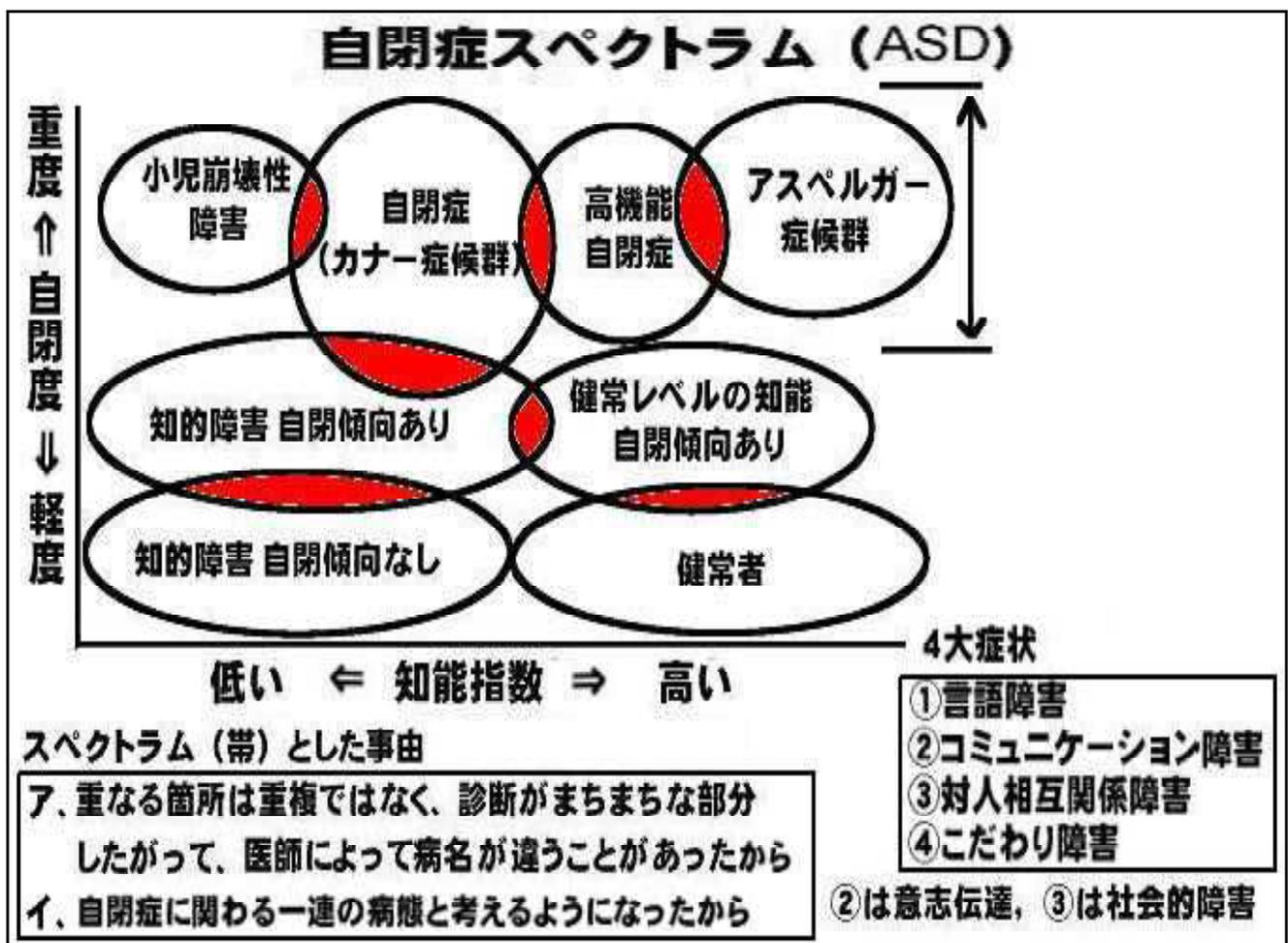
旧病名(DSM-IV)	新病名(DSM-5)
広汎性発達障害(PDD) ・自閉症 ・アスペルガー症候群	自閉スペクトラム症(ASD) *スペクトラムとは帯
注意欠陥・多動性障害	注意欠如・多動性症(ADHD)
学習障害	限局性学習症(LD)
性同一性障害	性別違和

ものですが、平成17年に施行の発達障害者支援法に基づく改名です。DSM改訂と同時に見直されました。有識者や家族会代表など関係者を含めた会議で検討され、改名に至ります。英語名を和訳する際にもそのまま直接的に言葉を当てはめるとは限りません。例えば、パーソナリティ障害は、直接訳せば「人格障害」です。これでは、障害者の人格そのものが否定されかねません。一つひとつの言葉が持つ意味や働きは、それぞれに深長で、大事としたい所です

* DSM=アメリカ精神医学会による精神障害の分類

自閉スペクトラム症 (ASD) の解釈

一方、広汎性発達障害 (PDD) が自閉スペクトラム症 (ASD) に改名されたのは、PDD が自閉症に関わる一連の病態と考えるようになったからです。その帯は下図に示すように、自閉度と知能指数の2つのベクトルから成り立ちます。帯図は7月の校内研修でも提示されましたが、下記はより詳しいものです。注目すべきは、重なる部分です。小児崩壊性障害 > カナー型自閉症 > 高機能自閉症 > アスペルガー症候群の各症状の境界線は、明確に決まっているわけではありません。重なる箇所は、医師によって診断が違う部分です。(多重障害ではありません) そこで、スペクトラム症という連続的な連なりにすると都合いいわけです。帯にすることで重なるの解消はできますが、逆に症状や傾向がはっきりしません。よって帯の内訳も知っておく必要があります。例えば図の左下に位置するものとしては、大方のダウン症患者があげられます。右上のアスペルガー症候群は、一面でとび抜けた才能を持つ人も多く、スーザンボイル、イチロー、アインシュタイン、エジソン、ビル・ゲイツ、ジミー大西といった有名人が挙げられます。また、織田信長や坂本龍馬もその傾向があると言われてています。



<参考資料> 「精神障害/疾患の診断・統計マニュアル」「DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引」日本精神神経学会
 心理療法の基礎と実際 (松井紀和: カウンセリング・サポートセンター) 精神医学・心身医学概論 (村上典子・溝部宏二)
 心理アセスメントと精神医学的診断/精神症状学 (柏木雄次郎: 大阪市立大学)